

## プロスポーツを含む6割のトップスポーツチームが ボランティア組織・団体を活用

文部科学省委託調査『スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究  
(スポーツにおけるボランティア活動を担う組織・団体活性化のための実践研究)』

笹川スポーツ財団(所在地:東京都港区 理事長:小野清子 以下:SSF)では、このたび平成26年度文部科学省委託調査『スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究(スポーツにおけるボランティア活動を担う組織・団体活性化のための実践研究)』を取りまとめました。本調査では地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体及びトップスポーツチームが活用しているスポーツボランティアの実態を把握することで、スポーツボランティア活動の活性化を検討するための基礎資料の取得を目的としています。主な調査結果は以下のとおりです。また、本報告書の全文はSSFのウェブサイトでご覧いただけます。

### 【主な結果】

- ① プロスポーツを含む6割のトップスポーツチームがボランティア組織・団体を活用している。
- ② 地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体では60代、トップスポーツチームが活用しているボランティア組織・団体では20~40代が活動の中心。  
地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体の登録者の中で、最も多い年代の一つを尋ねたところ、「60代」(54.0%)が最も多く、次いで「70代以上」(18.0%)であり、活動の中心となっている年代は60代であることが分かった。一方、トップスポーツチームでは「30代」(27.0%)が最も多く、次いで「20代」と「40代」(24.3%)であった。
- ③ 中高生のスポーツボランティア育成講座の実施

### 【担当者コメント】

今回、これまで把握していた地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体(81団体)と併せ、トップスポーツチーム(11競技、21リーグ)の全チーム(303チーム)を対象に悉皆(しっかい)調査を実施できたことは現状を把握する上で大きな成果であった。予想どおり、J1、J2、bjリーグでは、試合やイベント等の運営でボランティアを活用しているチームが多数あることが確認できた。また、プロ野球で3球団、Vリーグで6チームなどを含む、21リーグ中20リーグで、少なくとも1チーム以上はボランティアを活用していることが分かったのは新たな発見であった。プロ・アマを問わず、チーム運営でボランティアの重要性は高まっていると言える。

【笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 副主任研究員 工藤 保子】

### ■調査概要

正式調査名:平成26年度文部科学省委託調査『スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究(スポーツにおけるボランティア活動を担う組織・団体活性化のための実践研究)』  
「スポーツボランティア活動に関する組織・団体の実態調査」

調査期間:2014年8月22日~9月30日

調査対象:地域で活動しているスポーツボランティア組織・団体(81団体)と

トップスポーツチーム(303チーム)の計384組織・団体/回収率:46.9%(180票)

調査方法:郵送による質問紙調査

この件に関するお問合せ先  
笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所:工藤、澁谷  
TEL:03-5545-3303 info@ssf.or.jp

**【主な結果】**

- ① プロスポーツを含む6割のトップスポーツチームがボランティア組織・団体を活用している。  
 プロスポーツを含む21リーグに所属しているトップスポーツチームについて、現在、チームの試合やイベント等でボランティアを「活用している」と回答したチームは58.3%（67チーム）であった。「日本プロサッカーリーグ ディビジョン1（J1）」と「日本プロサッカーリーグ ディビジョン2（J2）」、「日本プロバスケットボールリーグ（bjリーグ）」について、活用しているチーム数（活用率）がそれぞれ8チーム（88.9%）、11チーム（100.0%）、7チーム（100.0%）と高いことが分かった。

**トップスポーツチームにおける現在のボランティアの活用状況**

**トップスポーツチームのリーグ別に見たボランティアの活用状況**

No.	リーグ名称	略称	有効回答数	活用している チーム数(活用率%)
<b>サッカー</b>				
1	日本プロサッカーリーグ ディビジョン1	J1	9	8 (88.9)
2	日本プロサッカーリーグ ディビジョン2	J2	11	11 (100.0)
3	J3 リーグ	J3	3	3 (100.0)
4	日本フットボールリーグ	JFL	9	6 (66.7)
5	日本女子サッカーリーグ なでしこリーグ	なでしこリーグ	7	4 (57.1)
<b>野球</b>				
6	セントラル・リーグ	セ・リーグ	3	1 (33.3)
7	パシフィック・リーグ	パ・リーグ	3	2 (66.7)
8	ベースボール・チャレンジ・リーグ	BC リーグ	1	1 (100.0)
9	四国アイランドリーグ plus	-	2	2 (100.0)
10	日本女子プロ野球リーグ	JWBL	1	1 (100.0)
<b>バスケットボール</b>				
11	日本プロバスケットボールリーグ	bj リーグ	7	7 (100.0)
12	ナショナルバスケットボールリーグ	NBL	4	2 (50.0)
13	バスケットボール女子日本リーグ	WJBL	2	1 (50.0)
<b>その他</b>				
14	日本バレーボールリーグ	V リーグ	15	6 (40.0)
15	日本女子ソフトボールリーグ	JSL	10	0 (0.0)
16	日本社会人アメリカンフットボール X リーグ	X リーグ	7	3 (42.9)
17	日本ハンドボールリーグ	JHL	4	3 (75.0)
18	ジャパンラグビートップリーグ	JRTL	8	2 (25.0)
19	日本フットサルリーグ	F リーグ	3	2 (66.7)
20	女子ホッケー日本リーグ	HJL	5	1 (20.0)
21	アジアリーグアイスホッケー	ALIH	1	1 (100.0)
<b>計</b>			<b>115</b>	<b>67 (58.3)</b>

## 中高生のスポーツボランティア育成講座の実施

2014年10月から2015年2月に宮城県仙台市において、中高生のスポーツボランティア育成講座を実施しました。本取組はスポーツの「する」「見る」「支える」の3要素のうちの「支える」ことの大切さを、中学生と高校生に学んでもらうため、支える活動であるスポーツボランティアへの理解の促進と、実践活動の場を提供。どの団体でも課題となっている、若手ボランティアの育成・確保の解決策を見つけることを目的としています。

### 【実施運営体制】

- ◆ 主体：市民スポーツボランティア SV2004  
グランディ・21 ボランティア
- ◆ 協力：宮城県教育委員会  
仙台市教育委員会  
ベガルタ仙台ボランティアクラブ  
仙台 89ERS ボランティア  
仙台ベルフィーユボランティア



実活動体験：エコステーション

### 【育成プログラムとスケジュール】

- ◆ 募集：2014年9月1日～10月15日
- ◆ 説明会兼第1回講義：2014年10月11日、19日
- ◆ 第2回講義：2014年11月2日、3日  
(両日いずれかを選択)
- ◆ 実活動体験：2014年10月中旬～2015年1月  
(3回以上の選択、レポートの提出)
- ◆ 「スポーツボランティア育成講座」  
修了証授与式：2015年2月7日



実活動体験：サイン会での選手サポート

- ◆ 得られた成果
  - 中学1年生から高校3年生までが、本講座に関心を持ち自主的に参加することが確認できた。
  - 中高生が29名参加し、内22名が本講座を修了した。
  - 座学と実活動体験のプログラム満足度が高く、プログラムの有効性が確認できた。
  - 修了生の9割以上が、スポーツボランティア活動の継続希望であることが分かった。
- ◆ 今後の課題と期待
  - 活動の継続性
  - 仙台市以外での取組の広がりを期待
- ◆ 仙台市では今年度、「スポーツコミッションせんだい」の事業として継続実施することになり、2015年6月6日、第1回の説明会を開催予定。